



小児健診 (県民健康調査より)

避難区域の小児健診

将来を担う子どもたちは社会の大切な宝物です。

一人ひとりが元気に明るく、心身ともに健やかに成長してほしい。

そこで現在、避難区域などに住まわれていた方々については、子どもを含めて健康状態を把握し、生活習慣病の予防や疾患の早期発見・早期治療につなげるため、健康診査を行っています。

年齢区分	検査項目
0歳～6歳 (乳幼児～就学前)	身長、体重、血算(赤血球数、ヘマトクリット、ヘモグロビン、血小板数、白血球数、白血球分画)
7歳～15歳 (小学校1年生～中学校3年生)	身長、体重、血圧、血算(赤血球数、ヘマトクリット、ヘモグロビン、血小板数、白血球数、白血球分画) [希望による追加項目] 血液生化学(AST、ALT、γ-GT、TG、HDL-C、LDL-C、HbA1c、血糖、血清クレアチニン、尿酸)

震災以降の変化

震災直後の平成23年度の小児健診では、それ以前と比べて、肥満傾向や脂質異常症などの割合が高くなっている可能性があるとのわかりました。

原因としては、避難生活や放射線不安などによる運動量の減少、食生活の変化、精神的ストレスや睡眠障害に伴う生活環境全般の変化などが考えられます。

震災から2年が経過した平成25年度は、平成23年度と比べると平均体重が減少し、平均身長が伸びており、肥満傾向が改善しているものと推測されます。

全国平均との比較では、身長と体重のいずれも全国平均より大きく、その差は身長よりも体重の方が大きいという結果でした。

もともと福島県は、震災以前から全国平均よりも体重が多い県でした。震災後に大きく増えた平均体重は、徐々に減少傾向にあります。全国平均との差はまだ震災以前よりも大きい状態です。引き続き、適度な運動、栄養バランスの良い食事、十分な睡眠を心がけましょう。

